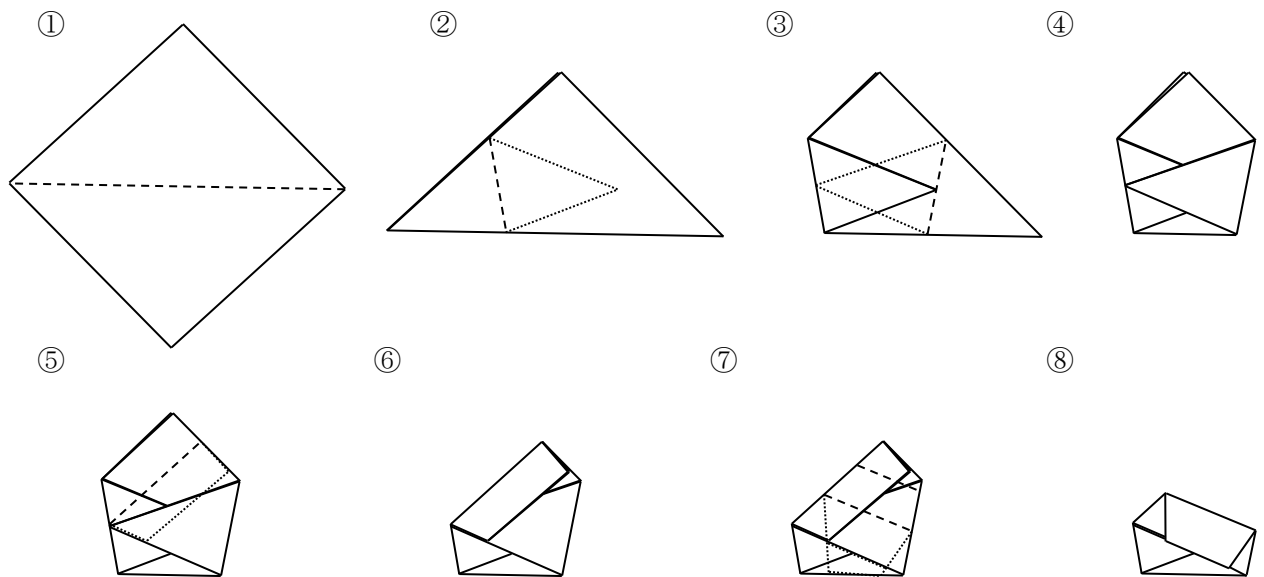


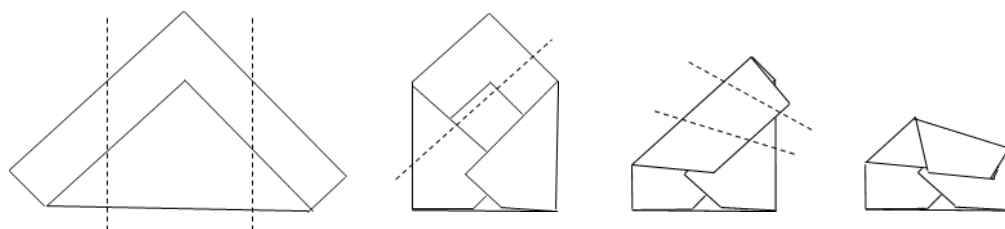
## 薬包紙の折り方

固体試料の乾燥や短期保存の目的には、薬包紙（または正方形に切った紙）を以下のように折って使用することができる。

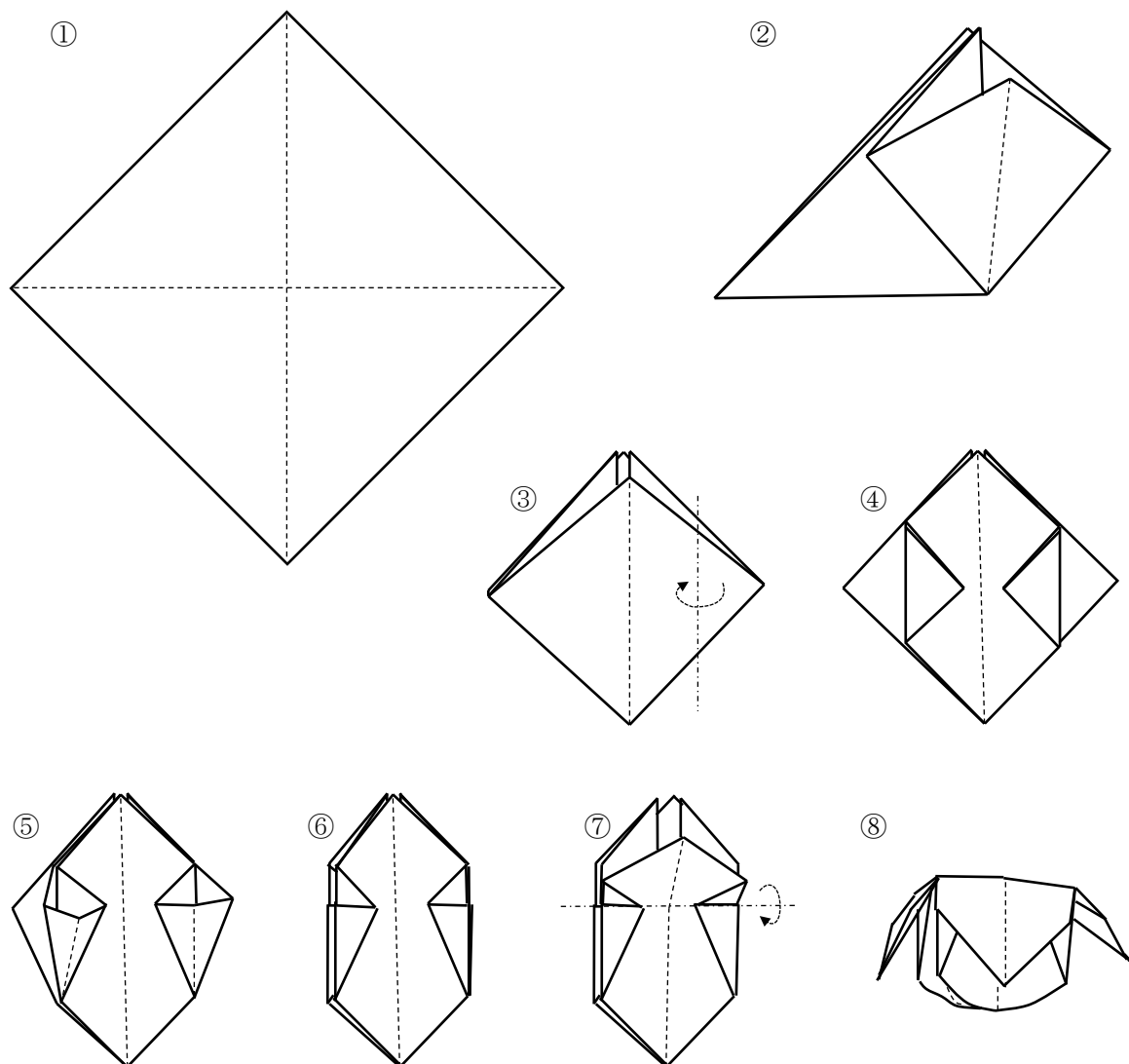


- ① 対角線で2つ折にする。
- ② 左の袖を右前に折り返す。先端の位置は、右の袖を折り返すときの折り目の中央か、やや下になるようにする。この先端の位置が中央付近より上になるように折ると、左右の袖の先端付近に余分な折り目が重なってしまうため、厚みで折りにくくなるほか、包みをといたときに粉末を他へ移す作業がスムーズでなくなるおそれがある。
- ③ 右の袖を同様に折り返す。
- ④ 左右を折り返した結果の形。ここでは右袖が上になるように重ねているが、逆でもよい。その場合は、次以降の左右が逆になる。なお、粉末試料を中央付近に載せたままここまで折ってもよいし、あらかじめこの形の折り目をつけておいてから粉末試料を置いてもよい。折り返す袖の部分には粉末試料が残らないよう、中央付近に寄せるようにすること。
- ⑤ 右の袖が手前にある場合、左の肩を手前に折り返す。折る位置は右袖の先端よりやや上あたり。
- ⑥ その結果。
- ⑦ 右の肩を手前に折る。隠れている左の袖の先端よりやや上の辺りで折り返し、更にその先端を、右袖の下辺がつくるポケットの中に折りこむようにする。
- ⑧ 完成形

(別法)



固体試料の量が多い場合は、風乾用に、正方形に切ったコピー用紙などや、丸型ろ紙を以下のように折って使用することができる。（幅を変えて折ると、箱と蓋として用いることができる。）



- ① まず4つ折にする。以下、丸型ろ紙を用いる場合も同様に折る。
- ② 鶴を折る要領で、袖の部分を広げてつぶす。
- ③ 両方の袖を広げてつぶしたあと、元の正方形の頂点が集まっているところを上にし、正方形の対角線に平行になるように左右を手前に折り込む。このときの幅が、出来上がり箱の幅を決めることになるので、箱本体と蓋とを作る場合は幅を変えて折る。なお、丸い用紙を用いる場合は、少し内側に近い位置で、出来上がりの幅が狭くなるように意識して折る。
- ④ 手前2か所を折り込んだところ。裏側も同様に向こう側に折る。丸い用紙を用いる場合は、左右から寄せた両腕の先端が対角線上で重なるくらいに折ってよい。
- ⑤ 折り返した袖を広げてつぶす。裏面も同様に。
- ⑥ 広げてつぶした袖の半分を向こう側に折り込む。
- ⑦ もとの正方形の頂点を手前に引き寄せるようにして折る。このときに、⑤、⑥で広げてつぶした袖が、箱の形にしたときに開いてしまわないように押さえる形になる。
- ⑧ 完成形。